

「希望と喜び」 ペトロの手紙Ⅰ 1:3-9

クリスチャンの大切な特徴は「希望」を持っているということです。救われることを新生(born again)と呼ぶのは、私たちはイエス様を信じる前は、体は生きていても心は死んでいたのだと聖書がはっきりと言っているからです。(エフェソ 2:1) そんな私たちに、イエス様は新しいいのち(永遠のいのち)を与えてくださったのです。この永遠のいのちは、イエス様を信じた瞬間に与えられるものです。しかも、その希望は「生ける」希望だということです。生ける希望とは必ず実現する希望です。「この希望が失望に終わることはありません。」(ローマ 5:5)

私たちはやがて神のみもとに行くことができるという希望です。6月の信仰セミナーでも「救いの四つの側面」で学びましたが、私たちはイエス様を信じ、罪赦され、永遠のいのちが与えられて救われました。これは新生です。同時に、私たちはやがての救いを待ち望んでいるのです。救われてクリスチャンとなっても、この世にいる限り病気にもなり、失敗もし、落ち込みもします。様々な問題に直面します。魂はすでに救われているけれども、全人格的な完全な救いはまだ得ていません。しかしイエス様が再臨された時、私たちは栄光の体に変えられ、死も涙も病もない、完全な愛で満ちている永遠の世界で生きることができるのです。これが生ける希望です。そして神様は、私たちがこの希望を現実を得ることができるように守ってくださると約束されています。(5節) 信仰とは頑張るのではなく、神の力によって与えられ、守られるのです。たとえ小さな信仰でも、神に信頼していくなら、そこに神の力は働くのです。

時々「つまずいた」と言って、批判したり教会を離れたりする人がいますが、そもそも聖書が言う「つまずかせる」とは、悪意をもって信仰を失わせる行為を指すのであって、何かの誤解や行き違いなどで人間関係が悪くなって言っているのであれば、それはつまずいたと言う人が自らを主の前に出すべきもので、そう言っている人自身の問題です。なぜなら神様は「あなたがたを守ってつまずかない者とし」てくださるお方なのでから。(コダ 24)

私たちが神様にしっかりつながってさえすれば、決してつまずくことなどないのです。

神様は私たちに、生ける希望を与え、私たちをいつも守ってくださるから、私たちは大いに喜んでいるのです(6節) 皆さんはアーメンですか。イエス様が共にいるなら、なにがあろうと喜びがあふれるはずですよ。実は、ペトロの手紙を受け取った人々は、迫害の真只中に置かれていました。辛く苦しい状況の彼らに対して、あなたがたは大いに喜んでいて、ペトロは書き送ったのです。もちろん、嫌なことは正直言って嫌ですよ。ましてや迫害は受けたくはありません。しかし、私たちが弱くても、内におられる聖霊はその時になったら必ず力を与えて守ってくださいます。クリスチャンとして歩いて行く時、様々な試練にあうでしょう。辛いところも通るでしょう。でも聖書はなんと言っていますか？

「あなたがたの信仰の試練は・・・金よりはるかに尊い」(7節)と言っています。弟子たちも福音を伝えたことで捕えられ鞭打たれ、語ることを禁じられた時「辱めを受けるほどの者にされたことを喜び・・・毎日神殿の境内や家々で・・・福音を告げ知らせていた。」(使徒 5:41)というのです。試練は襲ってくるでしょう。しかしそれを喜ぶなら、そこにあるのは恐れや不平ではなく、感謝と喜びの人生なのです。そして、試練を通る人は、やがてイエス様から称賛と栄光と誉をいただくと聖書は約束しています。試練は誉に変わるというのです。

これらの約束を与えてくださっているイエス様を、私たちは実際に目で見ただけではありません。しかし、イエス様を愛しており、信じており、喜びに溢れています。なぜなら、私たちの内におられる主を体験して知っているからです。祈りが応えられ、道が開かれ、必要が与えられる、今までの経験を思い返すと、主が生きておられることが分かります。それゆえに私たちの内から、喜びがあふれてくるのです。そしてその喜びは、私たちの周りの人々をも潤します、この喜びのサイクルは、魂の救いを得ている証なのです。

